

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	指導に関する校内研修の工夫改善に取り組む実践事例
-------	--------------------------

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

静岡県富士市

○学校名

富士市立岩松中学校

○学校のURL

<http://www.city.fuji.shizuoka.jp/~j-iwamatu/>

2. 学校紹介

○学級数

【通常学級】 1年生5学級 2年生6学級 3年生6学級

【特別支援学級】 1学級 【合計】 18学級

○児童生徒数

【全生徒数】 554人 (平成25年11月10日現在)

(内訳 1年生177人 2年生181人 3年生196人)

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校教育目標】 学びを楽しむ

【重点目標】「対話のある授業 きれいな学校 笑顔で挨拶」

【研究主題】「対話し、共に学び合う生徒の育成」

～生徒一人ひとりの学ぶ権利を保障し、将来幸せに生きていくための力を育てる～

○人権教育にかかる取組の全体概要

めざす生徒像

○仲間とのかかわりを通し、相手の立場を考え活動できる思いやりの心のある生徒

○「人モノこと」との対話を通して、自ら考え、判断し、表現できる生徒

○仲間の考えを尊重し、自ら正しいことを判断し、実行できる自立した生徒

○困難なことに出会っても、自分の可能性を信じ、粘り強く努力する生徒

全教職員で共有した方針

○生徒の尊厳、人格を大切にし、一人ひとりの学びにおける「安心」と「平等」を確保する。

○生徒一人ひとりの学ぶ権利を保障する。

○授業では、一人残らず学びに参加させる。

○教職員全員が互いに学び合い、教育の専門家として成長する。

具体的な取組

- 校内研修推進の基盤となる、教師の生徒へのケアリングの徹底。
- 生徒が互いに「対話し 共に学び合う」授業づくり。
- 教職員の専門性と職人性を高めるための校内研修の推進。

3. 特色ある実践事例の内容

○校内研修推進の基盤となる、教師の生徒へのケアリングの徹底への取組

[取組の目的]

生徒の人権感覚を高めて行くには、教師こそが高い人権意識を持たなければならない。そのため、教師一人ひとりが、どの子もかけがえのない存在であることを意識し、個に応じた、その子らしさを伸ばす指導を実践する。

[取組のきっかけ]

生徒指導が困難であった本校では、学校の秩序を維持するため、生徒への指導が一方的であったり、時には威圧的であったりする場面が見られた。教師が生徒の人権や人格を尊重した指導や支援をしなければ、子どもが自らを大切にし、仲間を認め、互いに成長していくことはできないと考えた。

[取組の内容]

○年間を通じ、教師の生徒への指導のあり方について、以下の2点について共通認識を図り、実践している。

(1) 生徒一人一人の尊厳を大切にすること

- ・生徒を大声で怒鳴らない。また、全体の前で一人を叱らない。
- ・生徒を受け止め、生徒の理（ことわり）をじっくりと聴く。

(2) 生徒の支えとなり、よいかかわりをもつこと

- ・生徒の身体の動きや様子から心を読み取って、先に声を掛ける。
- ・生徒の発するシグナルを敏感に感じとる。

○生徒が互いに「対話し 共に学び合う」授業づくりへの取組

[取組の目的]

生徒に「学ぶ楽しさ」や「分かる喜び」を味わわせ、仲間とのかかわりを通し、相手の立場を考え活動できる思いやりの心のある子どもを育てる。また、「人モノこと」との対話を通して、自ら考え、判断し、表現できる生徒を育てる。

[取組のきっかけ]

本校では、学校の教育で最も大切なのは、生徒一人ひとりの学ぶ権利を保障し、学びでの安心と平等を確保することだと考え、生徒が互いに「対話し 共に学び合う」授業改善に取り組んだ。

[取組の内容]

○定期的に集会で「岩中の学びについて」を全校生徒に説明する。

○5, 3, 1運動（5分前で呼びかけ 3分前で着席 1分前で黙想）を徹底する。

○「よい学びは よい環境から生まれる」を合言葉に、授業前の教室の整理整頓や換気などを行う。また、授業に向かう生徒の姿勢や仲間への話し方、意

見の聴き方などを徹底する。

○机の配置をコの字型、小グループは男女が市松模様となる4人組とする。

○1時間の授業の中に、仲間と学び合う小グループによる活動を入れる。

○1時間の授業の中に、基礎基本の定着を図る共有の課題と背伸びとジャンプのある質の高い課題を設定する。

○教職員の専門性と職人性を高めるための校内研修の推進への取組

[取組の目的]

授業で生徒の人権意識を高めるには、教師が互いに学び合い、共通理解をはかり、同一歩調で学校としての学びづくりを進める。また、教師の生徒を見とる力や授業をデザインする力を高める。

[取組のきっかけ]

すべての生徒の学ぶ権利を保障するには、生徒を学びの世界に引き込む教師の専門性と職人性が求められている。また、生徒が学び方を身につける上で迷わないように、研修体制を充実し、学校としての「学び」を確立する必要があると考えた。

[取組の内容]

○研修部会を時間割に位置づけ、生徒の学びの状況の分析と検証、今後の研修の方向について検討する。

○授業公開を年間一人一回以上実施する。

○すべての生徒が学びに参加していたか、グループでの学びは成立していたか、生徒同士のかかわりはどうであったか等について、学びの事実をもとに反省会を実施する。

○定期的に研究者や指導主事等のスーパーバイザーを招聘し、専門的な立場からの指導・助言をいただく。

○授業やスーパーバイザーの指導を録画したビデオライブラリーを作成する。

○三校合同研修会（小学校2校、中学校1校）を実施する。

4. 実践事例の実績、実施による効果

○取組が効果を上げた実際の事例

[校内研修推進の基盤となる、教師の生徒へのケアリングの徹底への取組]

- ・表情やしぐさから、生徒の心の内を感じ取ろうとする教師が増え、周りとかかわれない子へすぐに対応するようになった。
- ・生徒を受け止め、教師に聴く姿勢ができてきたので、生徒の「分からない」を仲間につなげる授業ができるようになってきた。

[生徒が互いに「対話し 共に学び合う」授業づくりへの取組]

- ・学びのよりよい空間づくりを意識したことで、生徒が落ち着いて授業に取り組むようになった。
- ・教師全員で学びのモラルについての指導をしたことで、仲間に対する心ない発言やあざけり笑いが減り、安心して「分からない。ここどうするの」と言える生徒が増えた。また、仲間の困り感を敏感に受け止め、自然に手助けのできる

生徒が増えてきた。

- ・机の配置をコの字型にしたことで、生徒に平等な関係が生まれ、発言が教師に向かってというのではなく、仲間に向かってというようになってきた。
- ・毎時間小グループでの活動を取り入れたことで、生徒の間に聴き合い、学び合う関係が生まれ、学びから逃避する生徒が減ってきた。



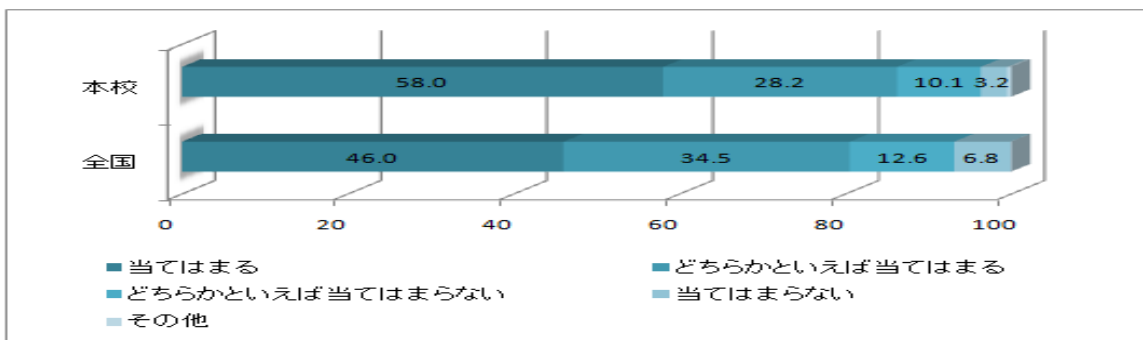
[教職員の専門性と職人性を高めるための校内研修の推進への取組]

- ・研修部会を毎週行うことで、その時点での生徒の学びの状況を把握することができ、年間を通しての研修の道すじが立てやすくなった。
- ・すべての教師が授業を公開し反省会を実施することで、教師が相互に学び合う関係を築くことができ、同僚性が高まった。
- ・スーパーバイザーから指導を受けたことで、生徒の学びの事実から授業を語るこのできる教師が増えてきた。また、授業中の生徒の小さな変化を見とる力や、その変化を本校の学びづくりへ意味づける力が付き始めている。
- ・小学校との研修交流をすすめることで、小・中9年間を見通した学びづくりの大切さを意識するようになった。

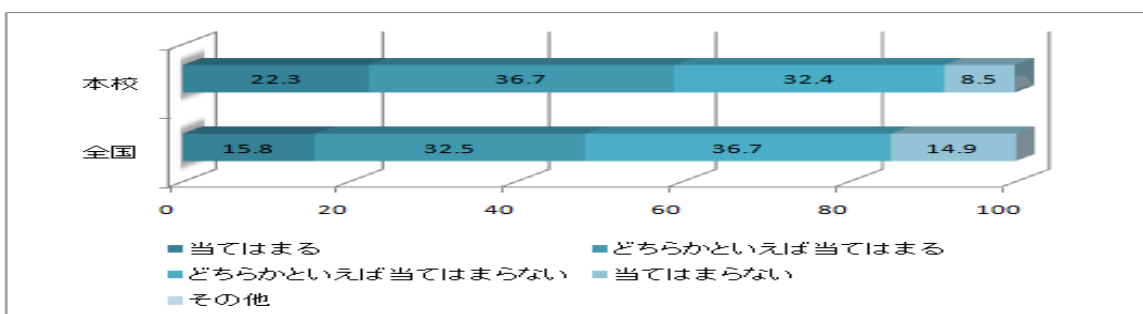


○ 全国学力学習状況調査の結果より

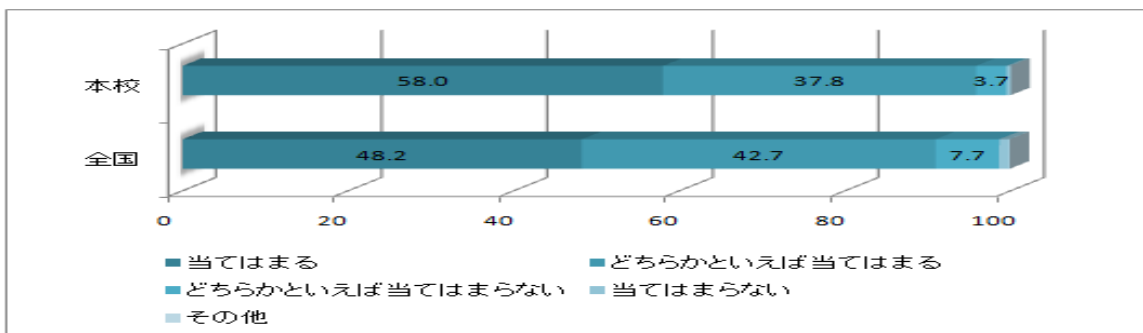
- ・学校に行くのは楽しいと思いますか。



- ・友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。



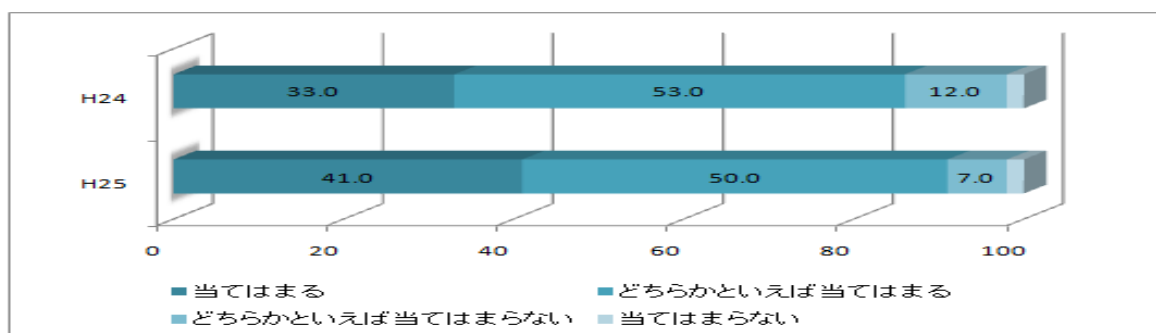
・友達と話し合うとき、友達の話を最後まで聞くことができますか。



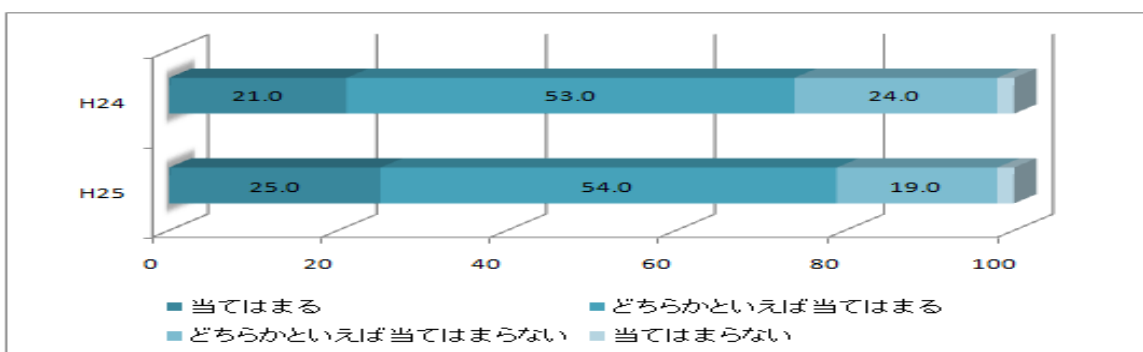
○ 学校評価（生徒アンケート）の結果より

・授業は楽しく、分かりやすいですか。

（3年生の変容）



（2年生の変容）



5. 実践事例についての評価

○取組についての評価及びそう評価する理由

生徒の学ぶ権利を保障するための授業改善を進めることが、生徒の人権意識の向上につながると考え取り組んでいる。その中で、教師自身が「学び」に関する教育観を変え、「教える専門家」から「学びの専門家」として成長していくこと、生徒が仲間とのかかわりやつながりの中で自己肯定感や他者への思いやりの心をもつことを大切にしてきた。来校者からは、「教師の生徒へのかかわり方が変わってきた。」「教師の生徒へのまなざしが優しくなり、生徒一人ひとりを大切にしていると感じた。」などの意見をいただいた。生徒の学びにおいても、仲間の意見とすりあわせ自分の考えを述べる姿や、分からないことを仲間に聞く姿が多く見られるようになってきた。

○現在、実施にあたって課題と感じていること

- ・学びから逃避したり、疎外感を感じたりする子どもは減ってきてはいるが、さらなる手立てや支援が必要な子どもが相当数見られる。
- ・教師の研修への取組に温度差が見られる。研修を核とした学校づくりをすすめ、同僚性のより高い教師集団をつくっていく必要がある。